

「山口育児院の 118 年とこれから」

山口育児院 理事長 深野宗泉 氏
(臨済宗建仁寺派洞春寺住職)

児童養護施設・山口育児院は、明治 37 年に日露戦争の孤児を洞春寺で預かった事に始まっています。ちょうど西洋のキリスト教社会における教会の社会貢献の一つとして、社会福祉に取り組む事を参考にしまして、江戸時代から明治にかけて、仏教の立ち位置が、官から民への役割が変わって模索される中で勃興して来た初期の頃に設立されました。

弊寺にも大きく関わられた井上馨侯が、寄付金集めなどに当時の財政界を奔走しています。

その後、昭和 27 年に社会福祉法人として認可を得まして、定員 30 名の大舎施設として 3 歳から 18 歳までの子どもをお預かりし、生活と養育の場、して現在はシェルターとしての役割を果たしています。

しかしながら現在は、国からの方針もありまして、なるべく家庭的な環境となるように、一度に 30 名を預かるのは子どもに寄り添うにはじゅうぶんでないとされまして、6 人以下の小規模化およびグループホーム化そして地域に密着した多機能化に舵を切るようにと推奨されております。ところが特に歴史が長い施設ほど、変化への対応と認識が遅れがちに。

その中で、若い職員がなかなか定着しないだけでなく、職員間の不満も溜まる一方となりましたが、コロナ禍を機に、職員を対象とした企画コンペを開催し、一見難しそうな事でも、一つ一つ形にして行く事で、職員の認識も受身から能動的に作り出す方向へと転換。本年 4 月より、岩国の児童養護施設の立上げに参画した職員が施設長に就任した事で、管理職と現場職員の意思疎通もスムーズになりまして、昭和から令和のスタイルへと、一遍に変化。今後も温かく見守っていただけますと幸せませす。